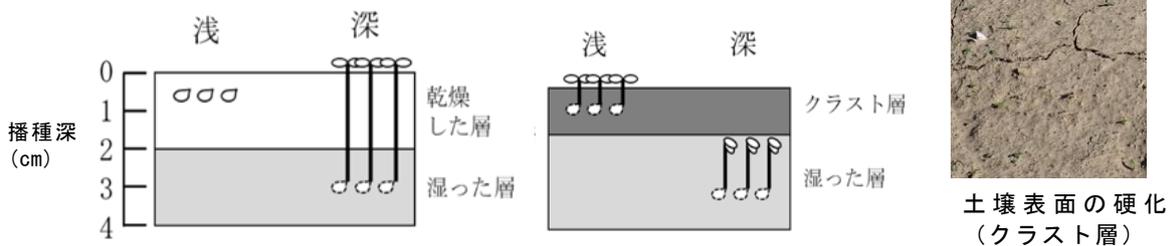


# 水田におけるゴマの苗立ちが安定する播種方法

ゴマの自給率は0.1%程度と極めて低く、根強い国産農産物への志向から、国産ゴマは高価格で取引されています。ゴマは高温多照ほど多収となる特徴があり、夏季に高温となる埼玉県に適する品目と言えます。そこで、既存機械を活用した省力栽培法を開発し、土地利用型作物として水田作経営に導入可能な技術を組み立て、栽培マニュアルを作成しました。

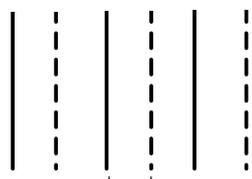
ここでは、栽培マニュアルに掲載している作業方法のうち、土壌表面が硬くなりやすい水田において、播種後の天候を問わず苗立ちの確保が可能な「二深法播種」について紹介します。

- ◎ゴマの出芽、苗立ちに適した播種深は、播種後の天候で大きく変わります  
 播種後乾燥状態が続く (浅まきで発芽不良)  
 播種後強雨→その後乾燥 (深まきで出芽不良)



- ◎天候に左右されない「二深法播種」を開発

浅 深 浅 深 浅 深



栽培予定条間の半分



深 浅

播種深による苗立ちの差 (浅まきが不良の状態)

「二深法播種」：栽培予定条間の半分の条間に、播種深 0.5~1cm(浅まき)と 3~4cm(深まき)を交互に播種し、苗立ちの劣った条を中耕作業により除去します。天候によらず苗立ちが安定します。



「埼玉県ゴマ栽培マニュアル(農技研 HP で一般公開中、QR コードでダウンロード可能)」  
 (水田高度利用担当 TEL 048-594-8321)